



平成 19 年 4 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社アイケイコーポレーション
 代 表 者 名 代表取締役社長 加藤 義博
 (コード番号: 3377 東証二部)
 問 合 せ 先 経営管理室・人財管理室・
 経営企画室管掌
 取 締 役 松本 博幸
 (TEL. 03-6803-8855)

平成 19 年 8 月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 18 年 10 月 13 日の決算発表時に公表した平成 19 年 8 月期(平成 18 年 9 月 1 日～平成 19 年 8 月 31 日)の通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 19 年 8 月期 通期連結業績予想数値の修正

(1) 通期業績予想数値の修正(平成 18 年 9 月 1 日～平成 19 年 8 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 18 年 10 月 13 日発表)	20,197	1,592	890
今 回 修 正 予 想 (B)	20,054	1,526	646
増 減 額 (B - A)	142	66	243
増 減 率 (%)	0.7%	4.2%	27.4%
(ご参考) 前 期 実 績 (平 成 18 年 8 月 期)	16,709	1,265	616

(2) 修正の理由

売上高につきましては、当社においては、マスメディア広告展開によって顧客層の裾野が広がり、買取(仕入)車輛の排気量構成および価格構成等に変化がみられるため、平均売上単価が当初計画より若干低下する見込みです。なお、当該マスメディア広告展開は、市場の状況を踏まえた上で、認知度向上、顧客層の拡大、販売台数の増加等において有効な取り組みであると認識しており、今後も継続する予定です。また、上期における一時的な販売台数の低下は現状において改善しているため、通期における販売台数については当初計画からの修正はございません。

子会社「株式会社パーク王」において展開するオートバイ駐車場事業においては、収益構造の調整(時間貸・月極等の割合の調整)を図るとともに、不採算事業地の整理等を含め将来に向けた改善を促進する方針ですが、上期において生じた業績の低迷に対する調整に時間

がかかる見込みです。

オートバイ販売事業を営む「株式会社テクノスポーツ」より事業譲受にともない新設した子会社「株式会社アイケイモーターサイクル」におけるオートバイ小売販売に関する売上高については、当初計画に含まれていなかったため全額が加算される見込みです。

以上の結果、前回予想との比較において142百万円減の20,054百万円となる見込みであります。

経常利益につきましては、当社においては査定システムに基づく買取価格の算定および営業努力によって売上総利益率の改善が図られる一方、子会社「株式会社アイケイモーターサイクル」における将来を見越した基礎構築（当社と当該子会社におけるオペレーションの連携および調整、また管理体制の見直し等）にかかる費用、および「株式会社パーク王」の当初計画からの売上高の下方修正を主たる理由とし、前回予想との比較において66百万円減の1,526百万円となる見込みであります。

当期純利益につきましては、上記までの内容に加え、「株式会社パーク王」における減損損失等の特別損失等を主たる理由とし、243百万円減の646百万円となる見込みであります。

2. 平成19年8月期 通期個別業績予想数値の修正

(1) 通期業績予想数値の修正（平成18年9月1日～平成19年8月31日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成18年10月13日発表)	19,629	1,583	886
今回修正予想(B)	19,614	1,783	926
増減額(B-A)	14	200	39
増減率(%)	0.1%	12.6%	4.5%
(ご参考) 前期実績(平成18年8月期)	16,653	1,312	660

(2) 修正の理由

売上高につきましては、事業集約化・業務効率性の向上等を目的として、平成19年6月に予定する、子会社「株式会社アイケイモーターサイクル」に対するオートバイ小売販売店「i-knew」の事業譲渡にともなう売上高の減少に加え、上記「1.連結(2)修正の理由」に記載したとおり、平均売上単価の若干の低下を主たる理由として、前回予想との比較において14百万円減の19,614百万円となる見込みであります。

経常利益につきましては、上記「1.連結(2)修正の理由」に記載したとおり、売上総利益率の改善を主たる理由とし、前回予想との比較において200百万円増の1,783百万円となる見込みであります。

当期純利益につきましては、特別損失において投資損失引当金繰入額を計上するものの、経常利益の増加を要因とし、前回予想との比較において39百万円増の926百万円となる見込みであります。なお、投資損失引当金繰入額につきましては、子会社「株式会社パーク王」に対する当社の出資金全額について行うものであり、当該子会社の業績が上期において当初計画を大きく下回ったことに基づくものです。

なお、1株あたりの配当額についての修正はございません。

以上

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因にかかわる本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。